

医師に聞く専門性の高い医療

頭痛は脳卒中の前兆のことも… 「あまり我慢せずに 原因を調べましょう」



副院長 富永 二郎 先生(月～木担当)のお話
脳神経外科

頭痛の経験のある方は日本人の30%、病院に来る方のうち、頭痛を訴える方は10%と言われる程、頭痛は誰にでも起きやすい症状です。しかし皆さんが心配なのはやはり、重大な病気の前兆としての「危険な頭痛」でしょう。「危険な頭痛」には、命にかかわったり、また救命されても重い後遺症を残す疾患が隠されています。しかし、痛みの程度がどんなに激しくても必ずしも危険とは言えないものもあれば、逆に軽い痛みであっても、そのまま放置した場合、命にかかわる場合もあり、その見極めは専門医でも難しいことがあります。一番危険なのは、

「今までに経験した」といって済ませず、頭痛が起きます。し

「椎骨動脈」が引き裂かれて、脳梗塞やクモ膜下出血を起こすことが多いことが知られています。血管が解離する(引き裂ける)時に頭痛が起きます。し

「椎骨(ついきこつ)動脈解離」の可能性がります。「椎骨動脈」とは、鎖骨の辺りから首の左右両側を、頸椎を通じて脳に至り、頭蓋内を還流する血管です。日本人には、この

「椎骨動脈」が引き裂かれて、脳梗塞やクモ膜下出血を起こすことが多いことが知られています。血管が解離する(引き裂ける)時に頭痛が起きます。し

か、**「緊張型頭痛」**「**後頭神経痛**」「**脳底型偏頭痛**」でも似たような痛みがあり、その鑑別は困難です。MRIの血管撮影(MRA)、CTで造影剤を使った3次元血管撮影(3DCTA)を行い、さらに診断が難しい場合はカテテル検査でやっと診断がつくこともあります。この頭痛がしばらく続いた後、脳卒中(クモ膜下出血、脳梗塞)を引き起こすことが多いため(先行して頭痛があった人は約80%)、早めに専門の病院を受診されることをお勧めします。

朝の起床時の頭痛は、脳腫瘍が原因であることが古くから知られています。しかし最近ではうつ病やストレス、睡眠障害など、心の病を抱えている人にも多いと言われています。

この他にも、放っておくと危険な頭痛はたくさんありますが、頭痛をお持ちの方はあまり我慢せず、早めにお近くの病院で原因を調べてもらいましょう。

危険な頭痛でないとしても、不安がとれて頭痛が軽くなる方もたくさんおられますよ。

*富永二郎/1991年東海大学医学部卒。医学博士。日本脳神経外科専門医。日本脳卒中学会専門医。

こんな頭痛は要注意!



① マットやハンマで殴られたような頭痛。
→クモ膜下出血の可能性あり

② 片側の後頭部やうなじの痛み。
→椎骨動脈解離の可能性あり

取材協力
医療法人 財団報徳会
西湘病院
院長 原 俊介
小田原市扇町1-16-35
☎0465-35-5773
http://www.seishou.or.jp